

今年度も、群馬県総合教育センター幼児教育センターの事業に対する御理解・御協力をいただき、ありがとうございました。

注目の情報満載の第51号！ぜひ最後までお読みください！

## 第51号の 内容

令和6年度  
研修講座  
実施報告  
P.2

令和7年度の  
研修について  
P.2

保育  
アドバイザー  
実施報告  
P.3

タヤケ  
保育研修会  
実施報告  
P.3

令和6年度  
研究報告  
P.4～8

2月1日(土)に、“ぐんま教育フェスタ”が総合教育センターを会場として開催されました。

幼児教育センターの発表会場は予想を超える来場者数で超満員となり、発表後の座談会もたいへん盛り上がりしました。

休日にも関わらず御来場くださった皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。



お問い合わせ

幼児教育センター

<https://center.gsn.ed.jp/yokyo>



0270-26-9203



[youji@edu-g.gsn.ed.jp](mailto:youji@edu-g.gsn.ed.jp)

SNSも  
見てね



# 令和6年度研修講座実施報告

今年度は、集合研修を増やしたり選択型研修を新設したりと、新たな試みもありましたが、皆様のご協力のおかげで円滑に運営することができました。ありがとうございました。研修後のアンケートから、受講者の先生方が学びを深めている様子を知ることができ、大変うれしく思いました。

研修に集中できる環境をご用意くださった園長先生はじめ園の先生方、関係機関の方々、ありがとうございました。おかげさまで充実した研修になりました。今後ともよろしく願いいたします。

講座コード	講座名	総日数	研修形態・日数
1010	幼稚園等新規採用教員研修	9日	集合研修：3日 オンライン研修：6日
1210	幼稚園等3年目経験者研修	2日	集合研修：1日 オンライン研修：1日
1410	幼稚園等5年経験者研修	2日	オンライン研修：2日
1610	幼稚園等中堅教諭資質向上研修	9日	集合研修：3日 オンライン研修：5日 選択型研修：1日
2010	新任幼稚園等園長研修	2日	集合研修：2日
2050	新任幼稚園等副園長・教頭研修	1日	集合研修：1日
3290	幼児教育と小学校をつなぐ研修講座	1日	集合研修：1日

## 令和7年度の研修について

来年度は、幼児教育の今日的課題である小学校との接続に関わる研修や、受講者同士が直接話し合う機会を設けることのできる集合研修を増やし、今年度以上に充実した研修を実現できるよう工夫しました。また、幼児教育と小学校をつなぐ研修講座を夕やけ保育研修会との合同開催とし、どなたでもご参加いただけるようにしました。ぜひ奮ってご参加ください！

講座コード	講座名	総日数	研修形態・日数
1010	幼稚園等新規採用教員研修	9日	集合研修：5日 オンライン研修：4日
1210	幼稚園等3年目経験者研修	2日	集合研修：1日 オンライン研修：1日
1410	幼稚園等5年経験者研修	2日	オンライン研修：2日
1610	幼稚園等中堅教諭資質向上研修	9日	集合研修：4日 オンライン研修：4日 選択型研修：1日
2010	新任幼稚園等園長研修	2日	集合研修：2日
2050	新任幼稚園等副園長・教頭研修	1日	集合研修：1日
3290	幼児教育と小学校をつなぐ研修講座 (夕やけ保育研修会との合同開催：3日)	4日	集合研修：2日 オンライン研修：2日

# 夕やけ保育研修会実施報告

今年度もオンラインで6回の研修を行い、**のべ180名（現行の形式での最大人数でした）**ほどの先生方に参加していただくことができました。来年度は「幼児教育と小学校をつなぐ研修講座」と合同開催とし、様々な校種、立場の先生方に御参加いただけるようにする予定です。ぜひご参加ください！

## 10/17 保育café 幼児理解・保護者支援

様々な立場の先生方とお話しすることで、自分の引き出しが増えたように思います。

自分自身、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士という経験をしてきましたが、保護者のニーズも時代とともに変容していると感じます。子ども理解とともに、保護者に寄り添い、ともに子どもを育てている同士として、支援していきたいと思えます。

## 11/15 群馬大学 安藤哲也教授 保育者・教諭のウェルビーイング ～キラキラしていて 働きやすい職場を考える～

保育者によって、保育観や保育の方法が違うことについてのお話で、本当に安藤先生がおっしゃっていた通りだと感じました。新人の指導や育成について、世代による考え方の違いを知り、参考になりました。今後の指導に生かしたいです。

「保育の正解は子どもの姿が教えてくれる。子どもだけが知っている」という言葉はその通りだと共感します。これからは子どものために頑張ります。

## 12/27 鳴門教育大学 佐々木晃教授 遊びはごちそう 学びは栄養 第二弾 ～遊びに誘う魅力的な環境～

1年生の生活科をする中で、児童が主体的に学びに向かっているための環境の構成について悩んでいました。「環境を充実させるための6つの視点」から学習対象を見ると、不足している部分が見え、環境の再構成ができそうだと感じました。実践に生かすのが楽しみです。

事例をもとに、くすりと笑ってしまうような佐々木先生の巧みな話術でお話をいただき、とても分かりやすい内容の研修会でした。幼児教育において、非認知能力を育てる重要性を再確認し、普段行っている保育に自信をもとうと思いました。子供たちが遊び込めるような環境の構成、教師の関わりの大切さを再認識しました。

# 保育アドバイザー実施報告

幼児教育センターでは、幼児期の教育や家庭教育の充実を目指し、保育所、認定こども園、幼稚園、学校、公民館等で行う講演会や研修会、保護者会に、保育や教育の専門家である「保育アドバイザー」を講師として派遣しています。今年度受講された方からの感想を掲載します。

## 「いま 子育てに大切なこと」 ～子供との関わり方～

【対象】  
こども園教職員  
保護者

保護者の方に、ゆったりと語りかけるように「いま 子育てに大切なこと」をお話していただきました。家庭の役割として「基本的な生活習慣を身に付けるのは、お父さん・お母さんが子供たちにあげる最高のプレゼント」という言葉が心に響きました。保護者の方々も、話が進むにつれて気持ち解きほぐれ、自分の毎日を振り返ることができたようでした。今後の子育ての学びや励みになりました。

## 「親子で楽しく ふれあい遊び 運動遊び」

【対象】  
保護者  
乳幼児

おうちの人と一緒に触れ合って遊ぶ中で、子供たちの嬉しそうな笑顔があふれていました。「あっ、この曲知ってる!」「懐かしい!」と私たちの日常がたくさん盛り込まれていて、わくわくしながら参加しました。「大きな拍手、小さな拍手」の次が分からなくなったとき、子供たちが「不思議な拍手だよ」と言ってやってみせてくれ、最後の「素敵な拍手」では今までで一番大きい拍手が沸き上がりました。親子で、そして園の全員で楽しい時間をすごせました。

## 「幼児の発達とメディアとの 関わりについて」

【対象】  
幼稚園教職員  
保護者

講師の先生のパワフルで明るいお人柄に引き込まれ、保護者の方たちも楽しい雰囲気の中で講演会に参加する姿が見られました。幼児期の発達にとって特に大切なこととして、眠ること・食育すること・遊ぶこととありましたが、それぞれが相互に関わり合っており、どれが欠けてもよくないと思いました。現代の子供たちは生まれたときから様々なメディア機器が身近にありますが、長時間の視聴によって与える心身や視力への影響を知ることができ、改めて適切な使い方を考えるよい機会となりました。

## 「幼稚園・保育所・こども園 から小学校へ」

【対象】  
新入学児保護者  
(就学時健診講話)

4月にお子さんの入学を迎える保護者にとって、具体的な内容を豊富に提示していただきました。これからの教育で目指す方向性を明確に示され、「非認知能力」について説明を受けたことで、保護者は今後の家庭における指針を得られたと思います。まとめの、「親が幸せになりましょう、親の自己肯定感も高めましょう」という言葉は、「教師が幸せになりましょう。教師の自己肯定感も高めましょう」という言葉に変えて、本校の職員にも伝えたいと思いました。

# 長期研修員との共同研究

今年度幼児教育センターでは、架け橋プログラムの推進に向けて、長期研修員との共同研究を行いました。5歳児や小学校1年生の姿の観察を通して見えてきた、子供たちが非認知能力を発揮し、さらに伸ばしていくための環境の構成や教師の関わりを位置付けたカリキュラムを提案しています。

本研究を基に、県内の架け橋期の教育がさらに充実していくよう、今後も研究を進めていきます。ご興味のある方は、群馬県総合教育センター幼児教育センターまで、ぜひご連絡ください。

## 幼児教育センターの基調研究

### 研究テーマ

### 子供に内在する非認知能力の発揮及び伸長を促す架け橋期の教育 —発達に基づいた架け橋期のカリキュラムの構想—

近年、非認知能力への注目とともに幼児教育への関心が高まっています。幼児期に子供たちが発揮してきた非認知能力を、小学校においても発揮できるようにするためには、どのようなことが必要なのでしょう。本研究では、子供の発達に着目し、幼児教育施設から小学校への接続の在り方と小学校における架け橋期のカリキュラムに必要な考え方を提案しています。

今後、架け橋期のカリキュラムを編成しようとしている自治体の関係者の方、学校園の先生方は、ぜひ幼児教育センターの研究をご覧ください！

本研究で提案している小学校第1学年における架け橋期のカリキュラムの枠組み

幼児教育センターで示している修了時の姿を生かした架け橋期のカリキュラムの全体イメージ

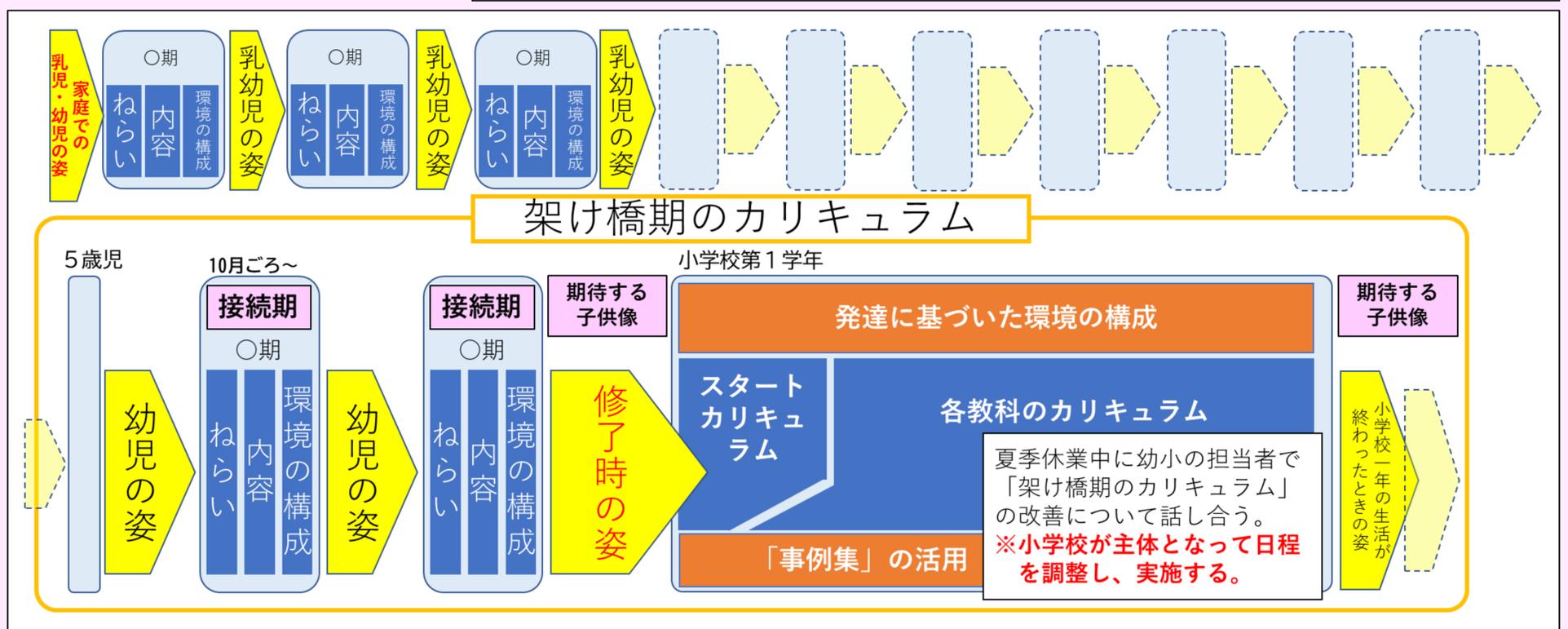
期待する子供像						
期(月)		I期 (4~5月)	II期 (6~7月)	III期 (8~10月)	IV期 (11~12月)	V期 (1~3月)
発達の様相						
ねらい						
子供の姿	生活面					
	学習面					
環境の構成						
方法としての教師						

**ポイント①**  
幼児教育施設から送付された「修了時の姿」と学校教育目標を基に、第1学年の修了時における児童の姿を想定して記述する。

**ポイント②**  
各期の発達の様相から捉えた具体的な子供の姿と、各期のねらいを記述する。

**ポイント③**  
各期における発達の過程から、生活や学習の中で見られる子供の姿を想定し、具体的な姿として記述する。

**ポイント④**  
想定した子供の姿を基に、各期のねらいに向かうために必要な環境の構成と教師の関わりを記述する。



# 長期研修員の研究

## 研究テーマ

### 小学校第1学年における非認知能力の発揮及び伸長を促す 架け橋期のカリキュラムの提案

—子供の発達に基づいた環境の構成や教師の構えを視点として—  
長期研修員 木村 弘子

幼児教育センターの基調研究に基づき、小学校第1学年における架け橋期のカリキュラムや、非認知能力を発揮している子供たちの姿を示した架け橋期事例集「きらり」、本研究の考え方に基いて生活科の授業を実践したときの交流活動例を研究成果として公開しています。

本研究で作成した小学校第1学年におけるカリキュラムは、多くの学校で、ほぼそのままお使いいただける内容となっています。本カリキュラムの考え方に基き、各教科の授業や日常の学校生活における指導を見直すことで、子供たちが幼児期に発揮してきた非認知能力を小学校でも発揮できるようになります。ぜひご活用ください。

〇〇小学校 架け橋期のカリキュラム (発達に基づいた環境の構成モデル)		期待する子供像				
期	I 4月上旬～5月中旬	II 5月下旬～夏休み	III 夏休み明け～10月中旬	IV 10月下旬～冬休み	V 冬休み明け～春休み	
発達の様相	・学校生活への期待や不安を感じる。 ・担任の教師への親しみをもち、 ・新たな友達との人間関係が形成される。	・学校生活に慣れ、生活の楽しさを自分からもち、 ・交友関係が広がり、様々な友達と関わりながら自ら進んで行動する。 ・学校の中で自己役割を意識する。	・異学年児童の学校生活への不安を感じる。 ・授業や学校行事に対して、自発的に学ぶようになる。 ・自分の思いや考えを伝えるようになる。	・褒めや励ましに喜びを感じ、互いに協力しながら生活する。 ・学習の中で得意不得意を感じるようになる。 ・友達の思いが分かるようになる。	・集団の一員としての自分を意識できるようになる。 ・学年に差を感じ、進級への期待と不安をもち、 ・自分の成長を感じる。	○友達と思いやりをもって関わり、学校生活を楽しむ ○興味をもったことに対して、自分から調べたり、協力して考えたりする ○言葉や体を使って思いを表現することを楽しむ ○情熱をもち、粘り強く努力する
ねらい	・新しい学習への意欲や不安を解消し、 ・学校生活の流れを知り、過ごし方を考えて生活しようとする。 ・学校の友達と良好な関係を築こうとする。 ・困ったことやしてほしいこと、思っていることを言葉で伝えようとする。	・自分から意欲をもって生活できるようになる。 ・思いがたり発露したりしたことを友達と伝え合うようになる。 ・友達と一緒に、のびのびと生活しようとする。 ・褒めや励ましを大切に受け取り、取り組むようになる。	・2学年の学校生活への意欲をもち、 ・授業や学校行事に対して、自分なりのめあてをもち、前向きに取り組もうとする。 ・自分の思いや考えをもち、担任や友達に伝えようとする。	・自分や友達のよさや違いを尊重し、互いに協力しながら生活する。 ・考えを伝え合いながら、学びを広げる。 ・学校行事で思いが合う楽しさを味わったり、自分の力を発揮し達成感や達成感を感じるようになる。	・友達の学習、遊びなど、集団で行動することを楽しみ、協力しながら生活をする。 ・上級生になる自覚をもち学習や行事に取り組む。 ・1年間できるようになったことを自覚し、自信をもって活動に取り組む。	
生活面	・学校生活への不安や不安から、体調不良が起きたり、 ・担任の教師に話しかけようとする。 ・同じ集団生活のメンバーとして生活しようとする。 ・休み時間や行事の際に学年と交流し、安心感や信頼の気持ちをもつ。 ・教師の仕事に安心をもち積極的に手伝おうとする。 ・学校の生活の流れのルールに沿って生活しようとするが、切り替えがうまくできないこともある。	・学校のルールを守り、自分たちが過ごしやすいように工夫しようとする。 ・クラスや学年の友達と関わり、新たな交友関係を築こうとする。 ・学校生活の楽しさを共有しようとする。 ・学校の生活の流れのルールに沿って生活しようとするが、切り替えがうまくできないこともある。	・夏休み明けは不安を感じる児童がいるが、学校に来る喜びを感じる児童もいる。 ・友達の考えに対して、自分の考えをはっきりと伝えることができるようになる。 ・自分の思いや考えが認められることに自分自身で喜びを感じるようになる。 ・学校生活の楽しさを共有しようとする。	・活動の際に、よりよい方法を友達同士で共有しながら進めるようになる。 ・自分や友達のよさや違いを尊重し、互いに協力しながら生活する。 ・友達の思いや考えを尊重し、互いに協力しながら生活する。 ・友達の思いや考えを尊重し、互いに協力しながら生活する。	・クラスの友達と過ごすことに心地よさを感じ、よりよいクラスにするために自分に何ができるかを考えようとする。 ・新しいことにも、友達と一緒に意欲的に挑戦してみようとする。 ・学校生活に慣れ、進級に対する自信や期待をもつ児童がいる一方、慣れ親しんだ学年との別れを不安を感じる児童もいる。	
学習面	・学習に対して興味や関心をもつが、興味が持続しないことに対しては意欲的に取り組めないことがある。 ・自分の考えを伝えたいと意欲的な児童がいる一方、聞き流すことへの不安から消極的な態度を取る児童もいる。 ・初めて使用する道具や教材の使い方が分からず、とまどうことがある。	・考えたことを自由に発表したり、教師や友達の意見に耳を傾けたりする児童が増える。 ・自分から意見を述べたいと意欲的な児童が増える。 ・ペアやグループワークの中で、自分の思いや考えを友達に伝えようとする。 ・学習内容の楽しさを共有しようとするが、自分で解決しようとする。	・興味があることに対して、自分から調べたり、それを伝えようとする児童が増える。 ・授業で学習したことを実践したり、休み時間や授業後に実践したりする児童が増える。 ・自分の思いや考えが認められることに自分自身で喜びを感じるようになる。 ・学校生活の楽しさを共有しようとする。	・活動の際に、よりよい方法を友達同士で共有しながら進めるようになる。 ・自分や友達のよさや違いを尊重し、互いに協力しながら生活する。 ・友達の思いや考えを尊重し、互いに協力しながら生活する。 ・友達の思いや考えを尊重し、互いに協力しながら生活する。	・自分で興味をもったことを、自宅や学校で調べたり、友達と共有したりする児童が増える。 ・興味があることに対して意欲的に取り組んだり、チームで取り組んだりする児童が増える。 ・新しい学習にも意欲的に取り組むようになる。 ・次年度以降の学習内容に興味をもったり、挑戦しようとする児童もいる。	
環境の構成	・園で慣れ親しんだ歌や手遊び、読み聞かせを取り入れ、安心感をもてるようにする。 ・授業開始をスムーズに設定する。 ・生活の流れを視覚的に示す。 ・友達と関わりやすい環境配置や、友達との教材の共有を意図的に行う。 ・担任と一緒に学校の仕事をこなせる環境を設定する。	・園で慣れ親しんだ歌や手遊び、読み聞かせを取り入れ、安心感をもてるようにする。 ・授業開始をスムーズに設定する。 ・生活の流れを視覚的に示す。 ・ペアワークやグループワーク等、考えを伝え合う場面を意図的に設定する。 ・担任と一緒に学校の仕事をこなせる環境を設定する。	・園で慣れ親しんだ歌や手遊び、読み聞かせを取り入れ、安心感をもてるようにする。 ・授業開始をスムーズに設定する。 ・生活の流れを視覚的に示す。 ・ペアワークやグループワーク等、考えを伝え合う場面を意図的に設定する。 ・担任と一緒に学校の仕事をこなせる環境を設定する。	・園で慣れ親しんだ歌や手遊び、読み聞かせを取り入れ、安心感をもてるようにする。 ・授業開始をスムーズに設定する。 ・生活の流れを視覚的に示す。 ・ペアワークやグループワーク等、考えを伝え合う場面を意図的に設定する。 ・担任と一緒に学校の仕事をこなせる環境を設定する。	・園で慣れ親しんだ歌や手遊び、読み聞かせを取り入れ、安心感をもてるようにする。 ・授業開始をスムーズに設定する。 ・生活の流れを視覚的に示す。 ・ペアワークやグループワーク等、考えを伝え合う場面を意図的に設定する。 ・担任と一緒に学校の仕事をこなせる環境を設定する。	
方法としての教師	・教師の仕事を手伝いたいという思いを受け止め、感謝の気持ちを伝えたり、友達と協力して取り組むことを体験したりする。 ・児童の興味や不安に寄り添うとともに、緊張や不安から来る行動を受け止めるようにする。 ・考えを伝えたいという思いを受け止めるとともに、他の児童の存在を意識できるようにする。	・教師の仕事を手伝いたいという思いを受け止め、感謝の気持ちを伝えたり、友達と協力して取り組むことを体験したりする。 ・児童の興味や不安に寄り添うとともに、緊張や不安から来る行動を受け止めるようにする。 ・考えを伝えたいという思いを受け止めるとともに、他の児童の存在を意識できるようにする。	・教師の仕事を手伝いたいという思いを受け止め、感謝の気持ちを伝えたり、友達と協力して取り組むことを体験したりする。 ・児童の興味や不安に寄り添うとともに、緊張や不安から来る行動を受け止めるようにする。 ・考えを伝えたいという思いを受け止めるとともに、他の児童の存在を意識できるようにする。	・教師の仕事を手伝いたいという思いを受け止め、感謝の気持ちを伝えたり、友達と協力して取り組むことを体験したりする。 ・児童の興味や不安に寄り添うとともに、緊張や不安から来る行動を受け止めるようにする。 ・考えを伝えたいという思いを受け止めるとともに、他の児童の存在を意識できるようにする。	・教師の仕事を手伝いたいという思いを受け止め、感謝の気持ちを伝えたり、友達と協力して取り組むことを体験したりする。 ・児童の興味や不安に寄り添うとともに、緊張や不安から来る行動を受け止めるようにする。 ・考えを伝えたいという思いを受け止めるとともに、他の児童の存在を意識できるようにする。	
主な行事や学習内容	・入学式 ・1年生を迎える会 ・入学式 ・1年生を迎える会	・入学式 ・1年生を迎える会 ・入学式 ・1年生を迎える会	・入学式 ・1年生を迎える会 ・入学式 ・1年生を迎える会	・入学式 ・1年生を迎える会 ・入学式 ・1年生を迎える会	・入学式 ・1年生を迎える会 ・入学式 ・1年生を迎える会	

## 架け橋期の カリキュラム

本研究で提案している小学校第1学年における架け橋期のカリキュラム。Webページには詳しい使い方も掲載しています。

## 生活科の 交流活動例

本研究の考え方に基いて単元構想した生活科の交流活動例。幼児と小学生が非認知能力を発揮して対等に関わる活動になりました。

### 幼小交流活動① 公園で秋を探そう

生活科：単元「こうんであきさがさぐ」  
一年生の公園での秋探しに、近隣の幼児教育施設の年長児も参加します。お互いに、当日出会うまでこのことは知りません。あらかじめ計画された状況ではないので、子供たちが主体的に自分で考え動く場面が見られます。また、公園という場でも学校でもない場所での出会いは、子供たちの対等な双方向的な関わりを生み出します。

- 01 出会い**  
一年生が秋を見付けに公園を訪れると、そこへ偶然幼児がやっています。
- 02 ペアづくり**  
子供たち同士でペアを決めます。自分たちでペアを決めることで、相手より身近に感じられるでしょう。
- 03 ペアで秋探し**  
ペアになったら、一緒に秋を探します。木の葉や実、他にもたくさん「秋」を見つけてみましょう。とっておけるものは袋に入れておきましょう。
- 04 一緒にお弁当**  
ペアで一緒にお弁当を食べます。どこで食べるか子供たち同士で相談して決めましょう。
- 05 一緒に遊ぶ**  
ご飯の後は、一緒に遊びます。新しい遊びが楽しめるかもしれません。先生も子供たちと体を動かして一緒に遊びましょう。
- 06 さようなら**  
一緒に拾った「秋」のものを集めて、後日一緒に製作活動をするのを伝えます。ハイタッチなど、子供たちのやり方でさようならをします。

好奇心 探求心 感受性  
コミュニケーション力  
自立心・主体性  
コミュニケーション力  
共感性・思いやり  
心の理解能力

### 幼小交流活動② 秋のおもちゃづくり & 校内お気に入りの場所案内

生活科：単元「あきのおもちゃをつくらう」  
公園での交流活動後、今度は小学校で園児と児童が共同で秋のおもちゃづくりを行います。公園で集めたものや、学校、園、家庭で集めたものを持ち寄り、製作をします。製作後は、児童が校内のお気に入りの場所を案内します。小学校は園児にとっては緊張する場所ですが、公園と一緒に活動した児童がいることで、安心して活動に取り組むことができます。

- 01 再会**  
園児が学校にやってきました。最初は緊張していますが、公園で一緒に活動した児童がいることで、安心して活動に入ることができます。
- 02 会場づくり**  
会場づくりは子供たちと一緒に進めます。道具のある場所や使うときのルールは児童が伝えるようにしましょう。
- 03 ペアで製作**  
秋探しのペアで一緒に製作開始！作りたてのものを相手に決めますが、それぞれ別のものを作っても構いません。自然と協力して作業する姿が見られるでしょう。
- 04 お気に入りの場所案内**  
児童が校内の「お気に入りの場所」を案内します。校舎の中の歩き方は、児童がよく知っています。
- 05 一緒に遊ぶ**  
校庭で一緒に遊びましょう。園児にとって、校庭は広く、たくさんの遊具がある魅力的な場所です。最初のペアにこだわらず、楽しく遊べる仲間を見つけて遊びます。
- 06 さようなら**  
最後はみんなで集まってさようならをします。秋の歌を一緒に歌ったり、絵本を読んだりしてみてもいいかもしれません。

自立心・主体性  
コミュニケーション力  
共感性・思いやり  
想像性 目標への情熱・粘り強さ  
協調性・協同性  
自信・自尊心  
共感性・思いやり  
コミュニケーション力

# 架け橋期事例集

## 「きらり」

子供が非認知能力を発揮している姿を分析した事例集。架け橋期に発揮される非認知能力や、非認知能力の発揮を促すための環境の構成、子供を受け止める教師の関わり方を示しています。



様々な先行研究を基に、架け橋期に発揮される非認知能力を整理しました。

### 架け橋期事例集「きらり」について

非認知能力は、教師や大人から与えられるものではなく、子供たちに生まれながらにして内在している心理的な働きです。それらは一人一人異なり、子供たちが安心して育める環境の中で、のびのびと自己発揮していく過程で育まれていきます。

架け橋期事例集「きらり」では、幼児教育施設の年長児と、小学校一年生の日々の姿を観察・分析し、そこで発揮されているであろう非認知能力についてまとめています。日々の生活の中で表れた子供たちの「きらり」と光る姿を、非認知能力を視点として多面的に分析し、内面理解を進めました。

子供の姿を通して日々の教育を振り返り、教師としての関わり方や、環境の構成を見直すきっかけとして本事例集を活用していただければと思います。

### 架け橋期事例集「きらり」で使用している非認知能力項目について

本事例集で使用する非認知能力の項目は以下の図のとおりです。架け橋期の子どもたち（年長児から小学校一年生）で見られるであろう非認知能力に焦点を当てています。このような非認知能力が発揮される基盤となるのが、子供が安心して育める教師との関係「アタッチメント」や温かく支援的な雰囲気づくり「風土づくり」です。また、これらの非認知能力は、子供の「内発的動機付け」に基づいた活動の中で発揮されていくと考えます。

自己に関わる心	社会的に関わる心
感受性	情緒を通して環境から刺激を受け、驚きや感動を見いだす。
好奇心	ものごとにおもしろさを見いだし、興味をもつ。
探求心・挑戦意欲	自らやりたいことを見いだし、積極的に環境に関わろうとする。
自立心・主体性	やりたいことを自分で決めて、自分の方で取り組もうとする。
自制心	自分の気持ちや感情と向き合おうとする。
自信・自尊心	「自分ならできる」という自信をもってものごとに取り組もうとする。
素直性	目的の達成に向けて、前向きで楽観的な期待をもつ。
目標への情熱・粘り強さ	情熱をもち、うまくいかないことがあっても諦めずにやり続けようとする。
想像性	心の中のイメージを言葉や動き等で表現したり、形にしたりしようとする。
心の理解能力	相手の気持ちや状況を理解しようとする。
共感性・思いやり	困っている友達や泣いている友達の気持ちに寄り添い、助けようとする。
道徳性・規範意識	よいこと、悪いことを自分なりに判断し、正しいと思う行動をとろうとする。
コミュニケーション力	言葉や動き等を通して、相手に思いを伝えたり相手の思いを理解しようとする。
協調性・協同性	共通の目的の実現に向けて、友達と一緒に考えたり、工夫したり、協力しようとする。

内発的動機付け

アタッチメント・風土づくり

### 架け橋期事例集「きらり」の項目について

- ① 期 架け橋期のカリキュラムにおいての期にあたるか ※子供の発達に目を向け、を3つの期に分けて捉えて
- ② タイトル & 子供の様子 事例の詳細
- ③ 写真 事例の場面の小学校もしくは園の子供たちの画像
- ④ 子供の思いや意図 事例の場面の子供たちの思いや意図
- ⑤ 教師の関わり方 事例の場面の教師の様子や子供への関わり
- ⑥ 事例の分析

① 期 架け橋期のカリキュラムにおいての期にあたるか ※子供の発達に目を向け、を3つの期に分けて捉えて

② タイトル & 子供の様子 事例の詳細

③ 写真 事例の場面の小学校もしくは園の子供たちの画像

④ 子供の思いや意図 事例の場面の子供たちの思いや意図

⑤ 教師の関わり方 事例の場面の教師の様子や子供への関わり

⑥ 事例の分析

### 方法としての教師について

幼稚園教育要領解説には、下記のような教師の役割が示されています。これらは小学校以降の教育においても、子供たちが非認知能力を発揮するための重要な環境の一つであると言えます。これらの教師の役割を「方法としての教師」と呼び、事例集に記載しています。

「方法としての教師」とは、子供がねらいに向かうための手立てとしての教師の在り方であり、教育の手段としての教師の存在とも言えます。「方法としての教師」を意識することで、子供たちが非認知能力を発揮する姿をありのままに受け止めることができると考えます。

#### 幼稚園等における教師の役割

- ・ 幼児が行っている活動の理解者
- ・ 幼児との共同作業者
- ・ 幼児と共鳴する者
- ・ 憧れを形成するモデル
- ・ 遊びの援助者
- ・ 幼児が精神的に安定するためのよりどころ

出典：幼稚園教育要領解説

#### 方法としての教師

- ◆ 子供の活動の意味を理解する
- ♪ 子供の目線に立つ
- ♥ 思いに共感し共鳴する
- ★ 学ぶ姿や関わる姿のモデルとなる
- ◆ 必要な人に対して必要なときに必要な援助を行う
- 子供が精神的に安定するためのよりどころ

実際の場面を分析し発揮されている非認知能力や教師の関わり方を示しました。

### そんなときもあるよね

朝の準備の時間、教室でD児が泣いています。先生を見付けると、近くに来て先生の体に顔をうすめて泣きはじめました。「どうしたの？」と聞くと、小さな声で「ママがいい」と言いました。「嫌なことがあったわけじゃないんだね」と先生が聞くとD児は頷きます。「学校が嫌なんじゃなくて、家でママといたいんだね」と再び先生が聞くとD児は泣きながら頷きました。心配した友達が集まり「どうして泣いているの？」と聞きます。先生とD児との会話を聞いていたE児が「ママがいいんだって」とみんなに言った後、D児の顔を覗き込み「そんなときもあるよね、私も園のときそうだったよ」と言いました。

泣いている友達を拭いてあげています。友達が泣いていたらかけつけます。

発揮された非認知能力

- ・ 心の理解能力
- ・ 共感性・思いやり

教師の関わり方

- ・ 泣いているD児を受け止めている。
- ・ 無理に泣き止ませようとせず、寄り添っている。
- ・ E児の発言に、「そうだよ、そんなときもあるよね」と共感している。

方法としての教師

- ・ 子どもが精神的に安心するためのよりどころ
- ・ 思いに共感し共鳴する

E児は自分自身にも経験があるからこそ、寄り添うことができたのだらう。その際、園の先生は同様に「そんなこともあるよね」と受け止めてくれたのかもしれませんが、そのような園での経験がこの場面できているのだとすると、とても重要な場面だと思います。園で先生がどのようにD児を受け止めていたのかを知ることで、小学校の指導が変わってくる可能性もあるでしょう。

子供の姿を受け止める際の教師の関わり方を「方法としての教師」として示しました。

研究成果は幼児教育センターWebページよりダウンロード可能です！過去の研究も掲載していますので、ぜひご覧ください！

# 特別研修員の研究内容

## 友達と共通の目的に向かって協働する幼児を育む

もめごとを幼児一人一人に応じて良質な刺激に変える教師の関わり

特別研修員 幼児教育 関川 香里（幼稚園教諭）

### 幼児の実態（3年保育5歳児）

○友達と遊ぶ楽しさを感じているが、思いの違いやルールを守らないことで「もめごと」が起こる。このような場面で、押す、叩く、その場を離れるなどの行動を通して気持ちを表現する。

### 教師の願い

○友達と考えやイメージを共有し、自分たちで遊びを作り出す楽しさを味わってほしい。  
○友達と共通の目的に向かって、一緒に考え問題を解決したり、協力して自分たちの力で進めたりするようになってほしい。

## 手立て もめごとを幼児一人一人に応じて良質な刺激に変える教師の関わり



幼児が安心して自分らしくいるための教師の関わり(ア)

友達とやりたいことが生まれるような状況づくり(イ)

体験(学び)を意識化できるような言葉掛け(ウ)

自分自身で行動を決めて動き出せるような援助(エ)

幼児の気持ちを揺さぶるような直接的・間接的な援助と、自分の気持ちと向き合う時間の保障(オ)

## お店屋さんづくりをするA児と他のことで遊ぶB児、C児、D児たちの間で、使う物の貸し借りについてもめている場面

A児は、イメージを形にしたり、実現したりする力をもっているが、友達と関わる中では、「こうしたい」という思いが強い。相手の思いに気付き、その立場になって考えることが課題である。そのため、A児には自分がやりたいことを楽しみ遊ぶ中で、友達と関わったり、友達のよさや思いを感じたりしてほしいという願いを教師がもっている。

### ①A児と友達の主張がぶつかり合う場面

A児：「お店をつくるのに、もっと段ボールが使いたいんだよ。16個使いたい」  
B児：「ぼくたちも使ってるよ。それだとなくなっちゃうよ」  
C児は上を見上げ、方法はないか考えているように見える。  
教師は幼児が考える前に提案してしまいそうだが、手立て(エ・オ)から「どうしたらいいかな?」と、言葉を掛ける。



### ②A児が友達に思いを受け止めてもらう場面

しばらく考えていたC児が、何か思いついたように、B児とD児に相談し始める。そして、B児とD児は貸すことのできる段ボールを持ってくる。  
D児：「使っていいよ」  
教師は「自分たちも使いたいのに優しいね」と言葉を掛けてしまいそうだが、手立て(ア・オ)から「どうしても貸せないならそう言ってもいいんだよ」と、言葉を掛ける。



### ③A児が自分の思いを友達に尊重してもらったことを感じる場面

C児：「これを使うから大丈夫」  
A児はC児の姿を黙ったまま見ているが、表情が晴れたように見える。  
教師はB児、C児、D児たちを認める言葉掛けばかりしてしまいそうだが、手立て(ウ)から「よかったね。こんな方法があったんだね」と、全員に言葉を掛ける。



### ④A児が、友達の話をしている場面

C児：「貸してあげるってことは、優しいことなんだよ」  
教師は友達に思いを受け止めるだけが良いこととは思えない。この場面に限らずどの幼児にも、誰かが我慢するのではなく、一人一人が納得して次に進んでほしいと考える。そのため、どのような言葉を掛けたいのか悩みながら「どうしても使いたいときは、貸せないって言うっていいんだよ」と、言葉を掛ける。(ア)(ウ)



## A児に育まれている『人と関わる力』の基礎となる資質・能力

一人一人の思いが大切にされる安心感

友達の思いを感じる

自分の思いを受け止めてもらう喜びを味わう

友達の優しさに触れる

友達と落としどころを見付け、互いによりよい解決方法を考えることの大切さを感じる

このような経験を重ね、幼児一人一人の資質・能力が育まれることで

A児は、自分の思いを実現するように遊ぶ日が続いたが、友達がペイプサートを始めると、仲間に加わった。A児は友達の話聞きながら椅子を並べたり、「お客さん呼んでくるよ」と言葉を掛けたりした。そして、友達にペイプサートを始められるか確認すると、それを客にも伝え、一緒に遊びを進めた。(イ)

自分の「やりたい」という思いだけで遊ぶA児だったが、友達とやりたいこと(目的)が生まれると、思いを共有し、一緒に実現しようとする様子が捉えられた。



### 成果

○「もめごと」を幼児一人一人に応じて良質な刺激に変える教師の関わりから、幼児の心は揺り動かされ、言葉にならないもよもよとした感情や、それが晴れたときの感情など、様々な感情を味わった。そして、葛藤しながら自身で行動を決めることが、自分の意志で行動する「主体性」や、感情をコントロールする「自制心」、友達の気持ちを思い描く「想像力」、友達の感情を共有し心を通わせる「共感性」などを育むことが分かった。また、少しずつ友達と共通の目的をもつようになると、協力して遊びを進めるようになり、目指す幼児像に迫る姿が確認できた。

### 課題

●実践から、幼児一人一人に応じて教師が関わることの大切さを再認識した。同時に、発達や内面などの目に見えないものを推測して幼児の姿を読み取ることや、瞬時に適切な援助をすることの難しさを感じた。今後も、幼児の姿を多面的に読み取ることや幼児一人一人に応じた援助を模索することで、自身の視野を広げていきたい。

## 関川香里特別研修員の研究報告（概要版）を掲載します

関川研修員は、もめごとを幼児一人一人に応じて良質な刺激に変える教師の関わりについて1年間の実践を重ね、研究としてまとめました。

本概要版のほかに、研究成果報告書と保育指導案を総合教育センターWebページで公開しています。ぜひご覧ください。

# 今後の研究の展望について

幼児教育センターでは、令和6年度の調査研究を基に、県内の架け橋プログラムの実施に向けた取組を進めていきたいと考えています。

すでに複数の市町村からご連絡をいただいておりますが、幼児教育施設と小学校の連携・接続をどのように進めていったらよいかお悩みの関係者、担当者の方がいらっしゃいましたら、ぜひ幼児教育センターまでご連絡ください。

<https://center.gsn.ed.jp/yokyo>

群馬県総合教育センター幼児教育センター

検索

クリック



0270-26-9203



youji@edu-g.gsn.ed.jp

## 幼児教育センターWebページに 調査研究事業のページを新設しました

幼児教育センターの調査研究事業の成果についてまとめたWebページを、今年度新たに作りしました。

今年度の研究だけでなく、過去の研究成果についても掲載中です。  
保育の質を高めるためのヒントが満載です。ぜひご覧ください！

令和5年度研究

調査研究事業  
保育におけるICT活用の現状と課題  
～ICTを楽しく手軽に！園における活用アイデア～

令和5年度は、「保育におけるICT活用の現状と課題」をテーマに研究を行いました。  
ICT活用とはいっても、何から始めたらいいのかわからない。使う場面がわからない。苦手意識がある。そんな思いをお持ちの先生方も多いのではないのでしょうか。  
そこで、今ある環境や、手に入りやすい機器で気軽に使えるICT活用アイデアについて調べてみました。まずは使ってみる。そんな気持ちで気軽にチャレンジしていただけたら嬉しいです。

保育におけるICT活用の現状と課題  
こちらをクリック！

紹介したタイムラプス動画はこちら

令和5年度は、保育の中でICTを活用するアイデアについて研究しました。「今ある機器でできること」を考え、紹介しています。

令和4年度は、保育者の指導力向上を目指して研究を進めました。日々の保育に生かせる考え方が分かりやすくまとめられています。

令和4年度研究

調査研究事業  
保育者の指導力向上に向けた支援

現在、「保育の質の向上」を図ることが重要とされる一方、保育現場では「働き方改革」の実現が、保育者不足や離職、心理的・身体的健康問題等を乗り越える手段であるとの認識も高まっています。  
このようなニーズに資する調査研究の必要性を感じ、幼児教育センターでは、令和4年度まで「保育者の指導力向上に向けた支援」をテーマに掲げ、研究活動を進めてきました。  
その研究成果をまとめましたので、ぜひ園内研修等でご活用ください。

「保育者の指導力向上に向けた支援」  
こちらをクリック！

伊勢崎市立第一幼稚園との  
共同研究

令和2年度研究

調査研究事業  
幼児期の教育から小学校教育への  
円滑な接続に向けて

群馬県総合教育センター幼児教育センターでは、平成29年度に県内の幼児教育施設及び公立小学校の御協力のもと「幼保こ小の連携・接続に関する実態調査」を行いました。この調査により、本県における幼保こ小の連携・接続に関する課題が見えてきました。  
そこで、幼児教育センターでは課題を乗り越えるヒントを紹介するリーフレットを作成いたしました。各幼児教育施設及び小学校等で御活用いただけますと幸いです。

リーフレット「幼児期の教育から小学校教育への円滑な接続に向けて」

リーフレットは  
こちらをクリック！

(参考資料) 「修了時の姿」(例)  
(参考資料) 5歳児後半からの指導計画を用いて「修了時の姿」を作成する方法  
(参考資料) 幼児教育施設から小学校へ「修了時の姿」を送付する際の鑑(例)

令和2年度は、今年度の研究の基礎となる、「修了時の姿」を活用した幼児教育施設と小学校との接続の在り方を研究しました。今年度の研究と併せてお読みいただくと、さらに理解が深まると思います。

調査研究のページはこちら！

<https://center.gsn.ed.jp/yokyo/kenkyu>

